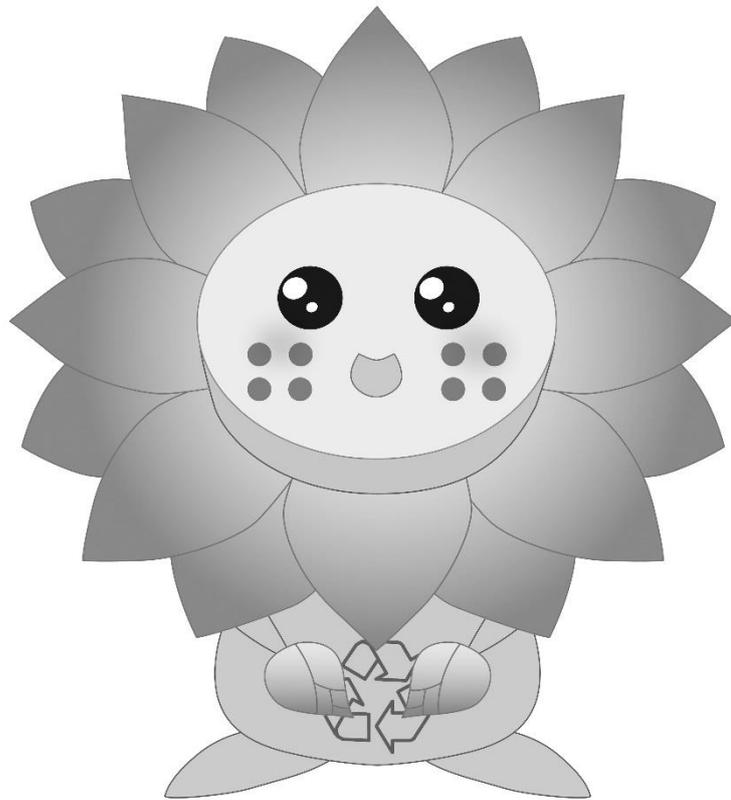


ごみ量の推移と 第2次町田市一般廃棄物資源化 基本計画の達成状況



2022年7月

町田市環境資源部

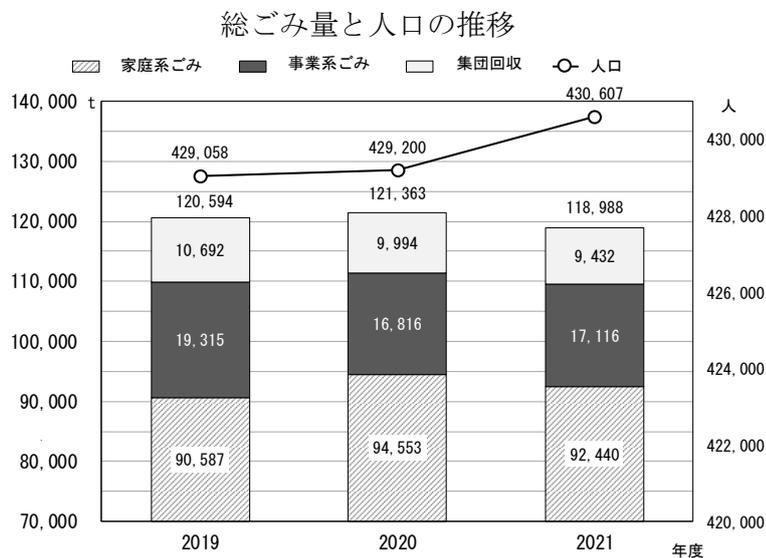
1. 総ごみ量及び資源化量の推移

(1) 総ごみ量※

・総ごみ量は、2019年度、2020年度と増加傾向が続いていましたが、2021年度は減少しました。

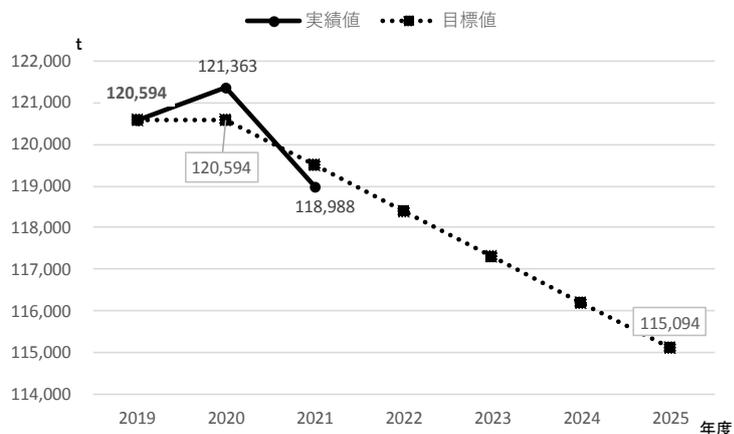
・2021年度の総ごみ量は、2019年度と比べ1.3%減少しており、家庭系ごみは、2.0%増加、事業系ごみは11.4%減少、集団回収は11.8%減少しています。2020年度と比較すると、総ごみ量は2.0%減少しており、家庭系ごみは、2.2%減少、事業系ごみは1.8%増加、集団回収は5.6%減少しています。

・人口は2019年度と比較して0.4%増加しています。



※ 総ごみ量・・・資源を含む、家庭系・事業系の合計
人口は10月1日時点

総ごみ量実績値と目標値の比較



資源とごみの内訳

単位:t/年

年度		2019	2020	2021	2019年度比	2020年度比		
人口(10月1日時点) 単位:人		429,058	429,200	430,607	0.4%	0.3%		
収集・持込量	燃やせるごみ	家庭系	64,370	66,396	64,674	0.5%	-2.6%	
		事業系	19,315	16,816	17,116	-11.4%	1.8%	
		計	83,685	83,212	81,790	-2.3%	-1.7%	
		燃やせないごみ	7,258	8,070	7,457	2.7%	-7.6%	
		粗大	3,233	3,281	3,498	8.2%	6.6%	
		有害	133	156	143	7.5%	-8.3%	
	ごみ量小計		94,309	94,719	92,888	-1.5%	-1.9%	
	資源	収集分	古紙	7,681	8,127	7,929	3.2%	-2.4%
			古着・古布	1,099	1,296	1,200	9.2%	-7.4%
			発泡トレイ	8	8	7	-12.5%	-12.5%
			紙パック	15	15	14	-6.7%	-6.7%
			小型家電	6	7	9	50.0%	28.6%
			ペットボトル	1,048	1,094	1,144	9.2%	4.6%
容器包装プラスチック			408	429	828	102.9%	93.0%	
剪定枝			574	619	491	-14.5%	-20.7%	
ビン			2,721	2,914	2,774	1.9%	-4.8%	
カン			933	1,058	1,048	12.3%	-0.9%	
計		14,493	15,567	15,444	6.6%	-0.8%		
持込分	リサイクル広場まちだ	107	89	86	-19.6%	-3.4%		
	剪定枝	993	994	1,138	14.6%	14.5%		
計		1,100	1,083	1,224	11.3%	13.0%		
資源量小計		15,593	16,650	16,668	6.9%	0.1%		
合計(総ごみ量)		109,902	111,369	109,556	-0.3%	-1.6%		
集団回収量	回収団体数 単位:団体	371	353	340	-8.4%	-3.7%		
	合計	10,692	9,994	9,432	-11.8%	-5.6%		
総ごみ量		120,594	121,363	118,988	-1.3%	-2.0%		

※容器包装プラスチックについては、2020年度までは資源化量としていましたが、2021年度からは収集量(不適物も含んだ数字)としています。

2021年度の資源化量は663tで、2019年度比62.5%増、2020年度比54.5%増となります。

【参考データ】

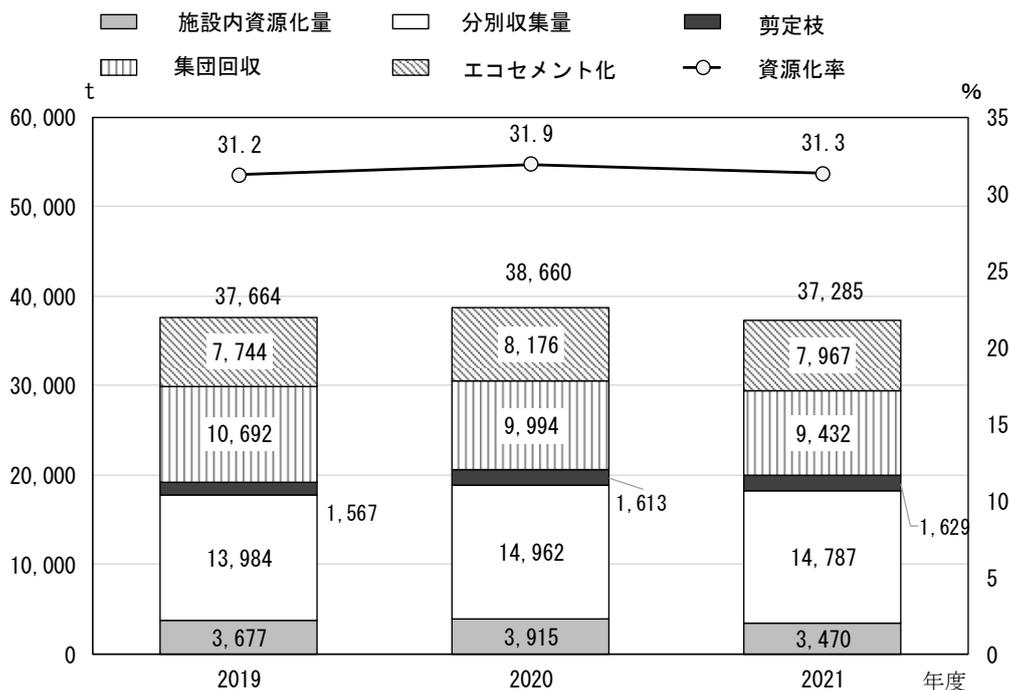
多摩地域 26 市全体の総ごみ量は、2019 年度が前年度比 0.6%増（町田市は 1.7%増）、2020 年度が前年度比 1.5%増（町田市は 0.6%増）となっています。2021 年度は集計中で、9 月頃に確定する予定です。

(2) 資源化量

・2021年度の資源化量は、基準年度の2019年度と比較すると、資源化量全体で1.0%減少しています。内訳として、施設内で資源化している金属類が151t(5.8%)減少、木質家具類が233t(73.5%)減少したこと等に伴い、施設内資源化量が5.6%減少しています。分別収集量は古紙が247t(3.2%)増加、古着が87t(8.0%)増加したこと等に伴い、5.7%増加しています。また、剪定枝は4.0%増加、エコセメント化量は2.9%増加しています。集団回収^{※1}は団体数が31団体減少したことに伴い11.8%減少しています。

・資源化率^{※2}(エコセメント・集団回収を含む)については、2019年度と比較して、資源化量が379t(1.0%)減少したものの、総ごみ量も1,606t(1.3%)減少したため、0.1ポイント増加しています。2020年度と比較すると、資源化量が1,375t(3.6%)減少したため、0.6ポイント減少しています。

資源化量の推移



※1 集団回収とは町内会・自治会、子ども会等が自主的に行っている資源回収

※2 資源化率 = 総資源化量合計(エコセメントと集団回収を含む) ÷ 総ごみ量

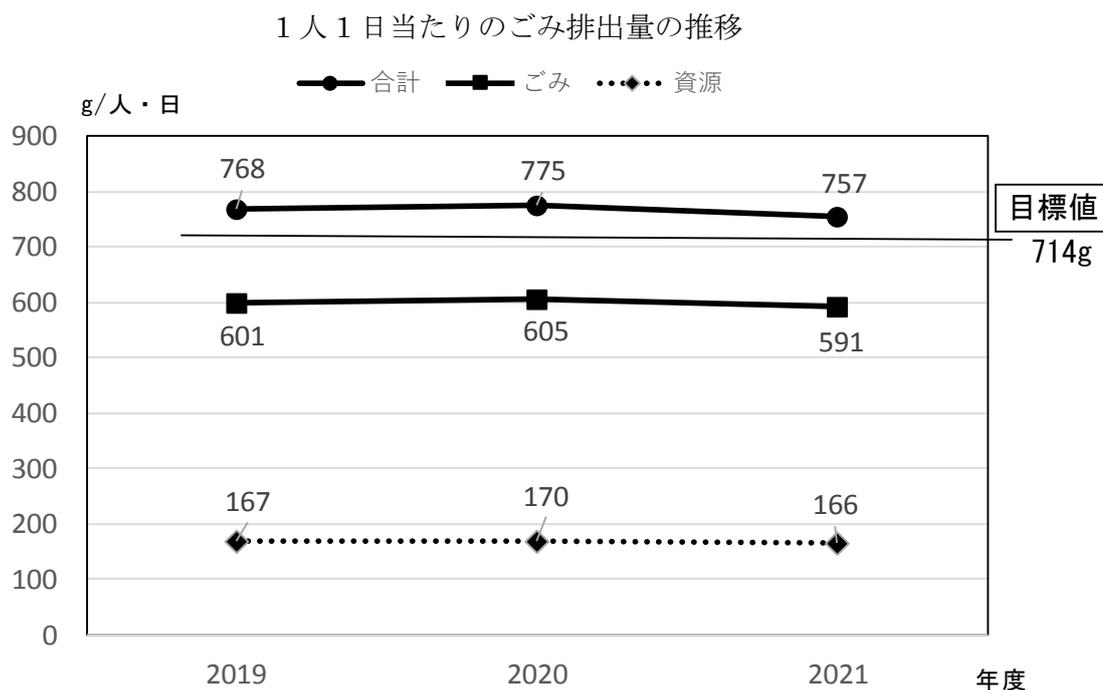
2. 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画（2021年3月策定）の進捗状況

（1）目標に対する進捗状況

①【全体目標1】「1人1日当たりのごみ排出量」を「2019年度比7%削減」する

・発生抑制を重視し、1人1日当たりのごみ量（資源を含む）を2030年度までに714g/人・日に削減することを目標としています。

・2021年度の1人1日当たりのごみ量は、757g/人・日となっており、2019年度と比較して、人口が1,549人(0.4%)増えた一方で、総ごみ量が1,606t(1.3%)減少したため、1.4%減少しています。2020年度と比較すると、2.3%減少しています。

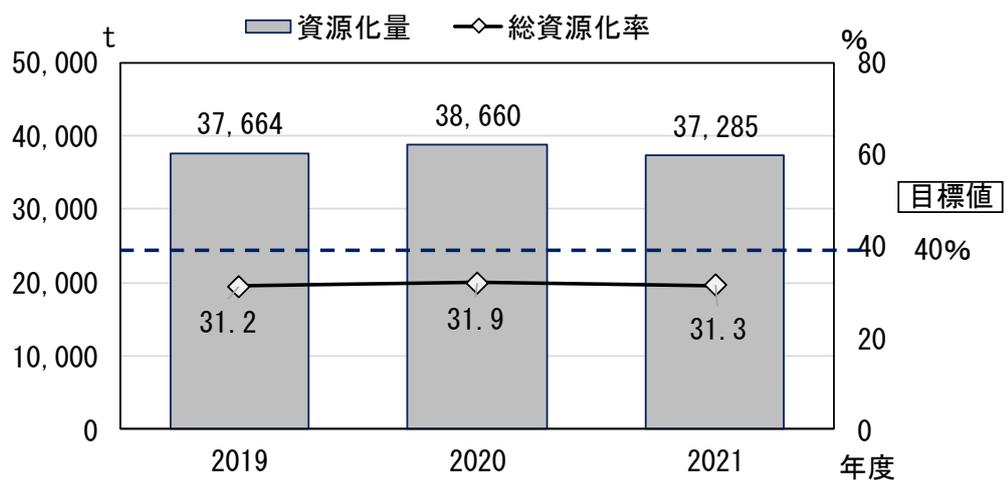


②【全体目標2】「総資源化率」を「40%」まで高める

・生ごみのバイオガス化施設でのメタン化をはじめとした総資源化率の向上に向けた取組を進めることにより、2030年度までに40%まで高めることを目標としています。

・2021年度の総資源化率は、31.3%となっており、2019年度比で0.1ポイント増加、2020年度比で0.6ポイント減少しています。主な要因として、新たに、2022年1月から生ごみのバイオガス化（245t）を開始したものの、2019年度と比べて金属類、木質家具類等の施設内資源化量が減少（207t）したこと、集団回収量が減少（1,261t）したことが挙げられます。

資源化量と総資源化率の推移



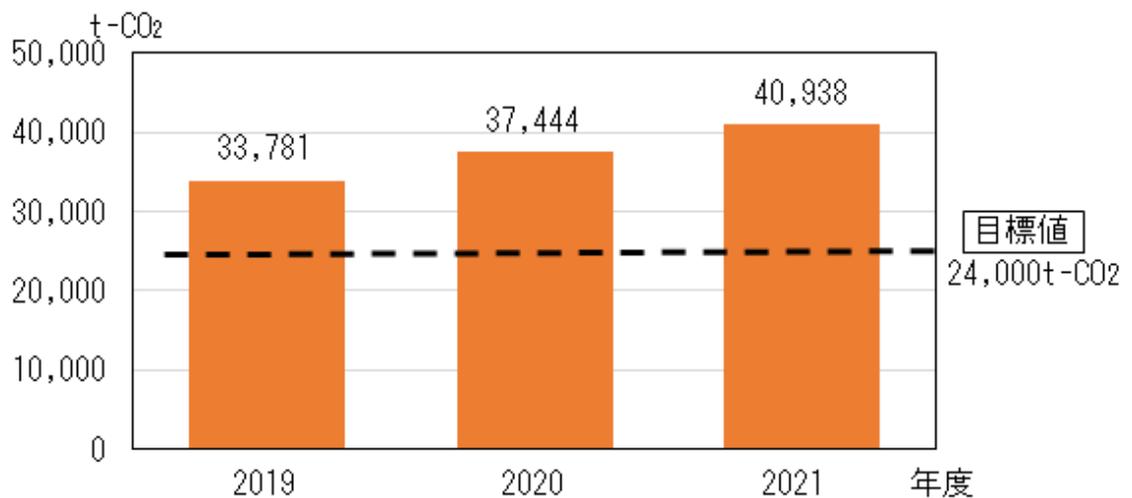
③【全体目標3】「温室効果ガス排出量」を「2019年度比30%削減」する

・発生抑制及びプラスチックの資源化を推進することで、ごみの焼却による温室効果ガス排出量を2030年度までに24,000t-CO₂へ削減することを目標としています。

・2021年度のごみの焼却による温室効果ガス排出量は40,938t-CO₂となっており、2019年度と比較して、21.2%増加しています。

・温室効果ガス排出量については主にプラスチックごみ及び合成繊維の焼却に伴って排出されるCO₂の量になりますが、2019年度と比較して焼却量は2,197t減少していますが、組成に占めるプラスチックの割合が1.6ポイント、繊維くずの割合が7.1ポイント増えたため、排出量が増加しています。

温室効果ガス排出量の推移



3. 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン（2021年3月策定）の進捗状況

基本計画を具体的に進めていくために、2021年に「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」を策定しています。

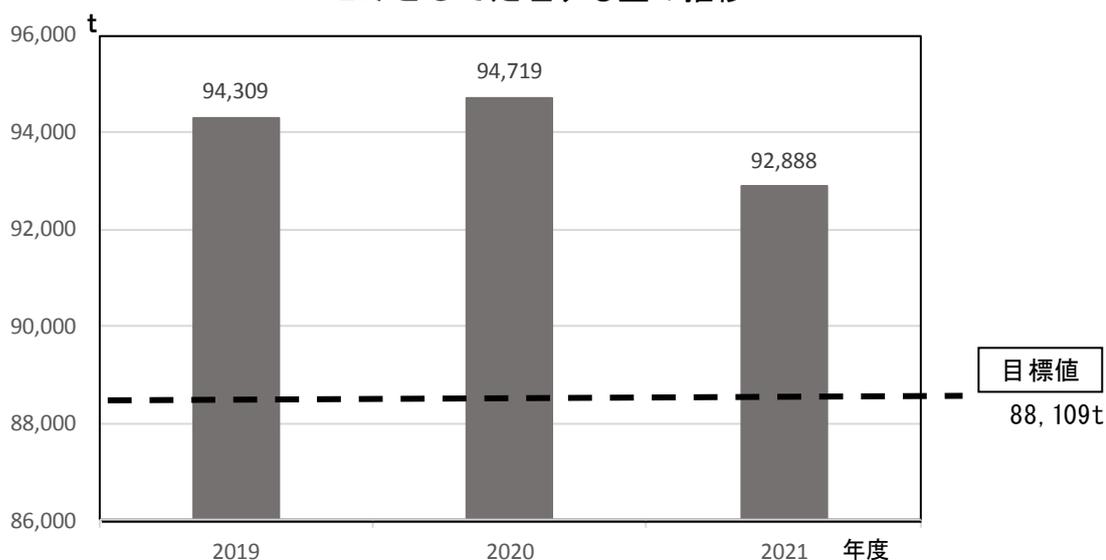
アクションプランでは、基準年度である2019年度のごみとして処理する量を、2025年度までに6,200t削減することを目標としています。2021年度は2019年度比で1,421t、2020年度比で1,831tの削減となっています。

【ごみとして処理する量の推移】

		2019 (基準年)	2020	2021	2025 (目標値)
家庭系	燃やせるごみ	64,370	66,396	64,674	59,170
	燃やせないごみ	7,258	8,070	7,457	7,258
	粗大	3,233	3,281	3,498	3,233
	有害	133	156	143	133
事業系	燃やせるごみ	19,315	16,816	17,116	18,315
ごみとして処理する量合計		94,309	94,719	92,888	88,109
基準年度比		-	-	-1,421	-6,200
進捗度(減量数/6,200t)		-	-	22.9%	100.0%

※ ごみとして処理する量 … 総ごみ量から資源分を除いた量

ごみとして処理する量の推移



(1) 目標値に対する進捗状況

①「生ごみ」の量

2021年度の燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる「生ごみ」の推定量は24,206 tとなっており、2025年度までに「生ごみ2,000 t削減」の目標に対して、1,750tの増加となっています。燃やせるごみ・燃やせないごみの量が503 t増加、組成割合が2.2ポイント増加したためです。

緊急事態宣言が2020年度は126日間、2021年度は138日間発令されており、その影響を受けたと考えられます。

【組成調査から推定した燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる生ごみの推移】

ごみの種類		2019 (基準年)	2020	2021	2025 (目標値)
燃やせるごみ・燃やせないごみ(t)		71,628	74,466	72,131	-
組成割合(%)		31.4%	31.8%	33.6%	-
生ごみ	推定量(t)	22,457	23,712	24,206	-
	基準年度比(t)	-	-	1,750	-2,000
	進捗度 (減量数/2,000t)	-	-	-87.5%	100.0%

②容器包装プラスチックの量

2021年度の燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる「容器包装プラスチック」の推定量は11,396tとなっており、2025年度までに「容器包装プラスチック1,200t削減」の目標に対して、1,765tの削減となっています。

レジ袋が含まれる軟質プラスチックの組成割合を比較すると、2021年度は2019年度と比較して1.9ポイント減少しています。

【組成調査から推定した燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる容器包装プラスチックの推移】

ごみの種類		2019 (基準年)	2020	2021	2025 (目標値)
燃やせるごみ・燃やせないごみ(t)		71,628	74,466	72,131	-
容器包装 プラスチック	組成割合(%)	18.4%	17.5%	15.8%	-
	推定量(t)	13,162	13,027	11,396	-
	基準年度比(t)	-	-	-1,765	-1,200
	進捗度 (減量数/1,200t)	-	-	147.1%	100.0%

③古紙の量

2021年度の燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる「古紙」の推定量は3,580tとなっており、2025年度までに「古紙500t削減」の目標に対して、184tの削減となっています。

2021年度は2019年度と比較して資源化できる紙類の組成割合が0.3ポイント減少しています。また、資源化できない紙類についても、0.9ポイント減少しており、ごみとして出されている紙類全体が減少しています。

【組成調査から推定した燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる古紙の推移】

ごみの種類		2019 (基準年)	2020	2021	2025 (目標値)
燃やせるごみ・燃やせないごみ(t)		71,628	74,466	72,131	-
古紙 (資源化して いる紙類)	組成割合(%)	5.3%	6.3%	5.0%	-
	推定量(t)	3,764	4,716	3,580	-
	基準年度比(t)	-	-	-184	-500
	進捗度 (減量数/500t)	-	-	36.8%	100.0%

④事業系ごみの量

2021年度の「事業系ごみ」の量は17,116tとなっており、2025年度までに「事業系ごみ1,000t削減」の目標に対して、2,199tの削減となっています。

事業者の食品リサイクルの実施等、ごみ削減の取組の効果が表れていると想定されます。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う事業活動の縮小の影響もあると想定されます。

【事業系ごみの推移】

	2019 (基準年)	2020	2021	2025 (目標値)
事業系ごみ(t)	19,315	16,816	17,116	18,315
基準年度比(t)	-	-	-2,199	-1,000
進捗度(減量数/1,000t)	-	-	219.9%	100.0%

⑤その他のごみの量

2021年度の「その他のごみ」の推定量は36,590tとなっており、2025年度までに「1,500t削減」の目標に対して、978tの増加となっています。

おむつ・衛生用品の増加率が大きく、使い捨てマスク等の増加も一因と想定されます。

【その他のごみの推移】…家庭系ごみの合計から、生ごみ・古紙・容器包装プラスチックを除いたもの

	2019 (基準年)	2020	2021	2025 (目標値)
家庭系ごみの合計-①	74,994	77,903	75,772	
生ごみ・古紙・容器包装プラスチックの量-②	39,382	41,456	39,182	
その他ごみ(①-②)	35,612	36,447	36,590	
基準年度比	-	-	978	-1,500
進捗度(減量数/1500t)	-	-	-65.2%	100.0%